

ボランティア通信

Vol.38

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp
Twitter : @SophiaVolante
LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア)
SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

※「ボランティア」とはポルトガル語の舵取りという言葉から、学生の皆さんのボランティア活動と社会を繋ぐ役を果たしたいという意味が込められています。

日本赤十字社ボランティア情報誌RCVNo.75の編集に 本学の4名の学生が参加しました。

全国の日本赤十字社ボランティアの情報誌RCV(Red Cross Volunteer) No.75が発行されました。今回は、パートナーシップ大学(明治学院大学、聖心女子大学、上智大学)の学生の個人ボランティアが編集委員を務め、本学から、村上真惟さん(文学部新聞学科1年)、菅谷さくらさん(法学部国際関係法学科2年)、片山咲さん(法学部国際関係法学科3年)、岩原明音さん(外国語学部英語学科2年)が編集に携わりました。ぜひご覧ください。

http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/201130_006463.html



- ◆CONTENTS◆
- 特集1「新型コロナウイルス感染拡大下での赤十字ボランティアの活動」
- 特集2「新型コロナウイルスの3つの顔 負のスパイラルをみんなで断ち切ろう!」「新しいボランティアのかたち」
- 特集3「献血とボランティア ～安定した血液供給を支えるために～」
- 特集4「令和2年7月豪雨で活躍 無線奉仕団」
- 第50回 朗読録音奉仕者感謝の集い 全国表彰を受賞
- 編集後記・コラム

「人々が孤立しやすい現在ですが、このRCVを通してボランティアという人と人との繋がりを再確認していただけたら幸いです。」 編集後記より

ちよだモデルネットワーク学習会 「被災者の困りごとを、どのようにして収集するか」に SVNのメンバーが参加しました。

2020年12月17日、千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター主催「被災者の困りごとを、どのようにして収集するか」ちよだモデルネットワーク学習会がZoom開催され、災害復興支援などのボランティアをしている本学課外活動団体“Sophia Volunteer Network”から、田熊優衣さん(法学部地球環境法学科1年)と水野七海さん(法学部法律学科3年)が参加しました。

今回の学習会のテーマは、“地域特性に応じた災害時の支援体制づくり”。2団体の事例を検証し、千代田区ではどのように活かせるのかを考えました。以下に、田熊さん・水野さんからの報告をまとめてご紹介します。

CMN「ちよだモデルネットワーク」とは
平時・災害時を問わず区内の機関同士が連携し、顔の見える関係づくりをすすめているネットワーク。
参加している各機関で、平時でも災害時でも必要となるボランティアコーディネーション力を共通項に、幹事会・連絡会を開催しています。

【事例】

- ①一般財団法人 ダイバーシティ研究所 (<http://diversityjapan.jp/>) の発表
 - ・大阪府北部地震(2018/6)における、調査員による訪問調査から、情報収集、ニーズの発掘への検証
 - ・400人の調査員で対応できたのは1500人、全世帯は困難
 - ・アパートでは、内部の状況把握困難
 - ・2019年には事前に要配慮者を調査する取り組みを実施→事前のニーズ調査と対応策を考えることが重要

②鋸南町社会福祉協議会の発表

- ・広域、且つ甚大な被害を千葉県にもたらした台風において、大学生が一軒ずつ家をまわり、ニーズ調査した事案。
- ・被害を受け救助が必要でも、困っていることを具体的に言わないなど声を上げない人も多い。
- ・SNSを用いたアンケート調査は高齢者には浸透していない実態がある。

【参加学生の感想】

被災地での活動には、地域性を考慮することが欠かせません。ここ千代田区は、①昼間人口が多いのに、対して夜間人口が少ないこと、②マンションなど高層の建物が多いこと、などが特徴なので、それを踏まえた事前の計画や活動が必要になるかと思っています。

事例①については、まさに大学生もその一要素です。そのため、災害時に大学生が活動することを想定する場合、発災が夜間であればそもそも大学生は不在であり初動活動は困難です。対して、昼間であれば自身も被災者かつ帰宅困難者となることの問題、区内の状況について詳しくない者が活動することへのハードルがあるので、その点を克服したほうがよいと感じました。

事例②については、セキュリティの施されたマンションにおいて住民と接触し、要支援者等の情報を得ることは困難です。この部分は、マンションの組合・防災組織にゆだねることも一つの解決策になると考えます。

この種の事案では、平時にどれだけの取り組みをしているかで、その後の対応が変わりうるので、地域における普段からの関係性構築やあらかじめのニーズ把握が非常に重要だと感じました(もちろん、見えないニーズの把握に努めることも大事です)。

いくつかの克服すべき課題は見つかったものの、大学生でもできる、あるいは大学生だからこそできる災害ボランティアも多くあります。今回の学習会でのトピックである、「大学生が被災者のニーズ調査に関わる」ことも将来的には実現可能なことの一つだと考えます。(水野七海)

千代田区という地域に特別に関わった経験はありませんでしたが、大学生ボランティアにまつわる身近なお話についても聞くことができました。実際にボランティアに行くことが難しい中で、今だからこそ出来る災害対策について改めて考え直す機会になりました。

まず、一般財団法人ダイバーシティ研究所の方から災害時にコンビニへ備品や食料を確保しに行く事例を聞きました。コンビニでできる救済として、電気やバッテリーの提供が挙げられておりコンビニ本来のあり方とは違う顧客へのサービスの仕方もあるのだと気付きました。「早く物を買いに来れる人ほど元気な人であるから、物をすぐに買いに来れない、救済を本当に必要としている人のために、ある程度の備品を確保しておくべきだ」という意見を聞いて、このように購買行動を違う視点から見る必要性を実感しました。

千代田区独自の特徴を理解し、考慮し、生かした計画をすることが求められます。災害時に連携が円滑に取れるように平常時からの地域のコミュニティの強化は欠かせないのだと思いました。また、高層ビルが多いからこそ、建物ごとにその住民や社員内で災害時の決まりごとやルールを決めておくべきだと考えます。

グループディスカッションで、普段関わりのない地域外の調査員からいきなり質問されても答えにくいのではないかと問題提起があり、これに対して、普段から地域内だけでなくボランティア団体や大学生たちとも交流をある程度図る機会を設ける必要があるのではないかと考えました。また、大学生ボランティアの人数をさらに増やすために、ボランティアサークルだけでなくその他のサークルにも参加してもらおうと呼びかけたりして機会を提供することで参加しやすくなると思いました。社会人の方々の意見や考えを聞き学ぶことができ、とても刺激になりました。ありがとうございました。(田熊優衣)

オンラインで南三陸町と上智大生をつなぐプロジェクト活動報告①

《南三陸町×上智大学オンラインイベントプロジェクトとは？》

オンラインで南三陸町の皆さんと上智大学の学生をつなぐ、全4回シリーズのイベント。7名の学生プロジェクトチームで企画運営をしています。

地域づくりに携わる南三陸町の皆さんから直接お話を伺い、南三陸の魅力に触れると共に、参加者それぞれの地元について考える時間になっています。

協力：一社団法人 南三陸観光協会



Instagram@minamisanriku_sophia

第1弾「地域と防災」では、南三陸町観光協会に語り部をされている西條美幸さんを講師としてお招きしました。(2020年12月20日開催)

～バーチャルまちあるき～

事前に撮影して頂いた動画に合わせながら南三陸の風景について西條さんに説明して頂きました。西條さんのガイドにより実際に南三陸の街を歩いているような雰囲気の中、南三陸を訪れたことがない参加者にも町の魅力が伝わりました。参加者からは「現在、南三陸の町がどうなっているのかを震災時の解説を聞きながら見る事で、頭の中の震災時の様子と、現在の様子を対比させることができた」などの声がありました。

～講話～

震災発生時から時系列に沿って、部活動中に公民館で被災した西條さんの心情や取られた行動をもとに体験談をお話し下さいました。企画後のアンケートでは、「西條さんのお話はリアルなもので、ニュースだけの話ではなく現実味を帯びていて、防災を真剣に考えようと思える内容でした」などの声がありました。

～ブレイクアウトルームセッション～

参加者の居住地ごとに4つのブレイクアウトルームに分かれ、一番近い活断層や避難所について調べたり、「防災3か条」を考えたりしました。また、西條さんが各グループを回ってくださり、学生の質問に答えて頂く時間にもなりました。学生達はそれぞれの視点で考え、沢山の質問もあがりました。発表された各チームの「防災3か条」から一部をご紹介します。

「物資の備え(備蓄、防災用品)」、「知識の備え(避難ルートや行動の想定など)」、「絆の備え(地域のコミュニティの構築や避難想定場所の共有など)」、「常に観察、分析を行う」、「何事にも問題意識を持つ」、「不測の事態でもうろたえない心を養う(日常生活でも大小、不測の事態はある)」等



南三陸町×上智大学
オンラインイベント開催！

1 地域の防災 12月20日(日) 15:00-17:00

東日本大震災の教訓から、自分の地域でできる防災を考えよう！

- 南三陸バーチャルまちあるき 使用ツール：ZOOM
- 語り部 西條美幸さんの講話 参加費：無料
- 地域防災のグループワーク お土産：南三陸産銀鮭の商品

先着15名

第1回ゲスト
語り部 西條美幸さん

協力：一社団法人 南三陸観光協会

お問い合わせ・minamisanriku.project@gmail.com

参加者の声

「震災発生からもうすぐ10年が経とうとしていますが、正直、こうして実際に被災された方から直接お話を聞くことは初めてのことでありました。私自身、来年から社会人となり、大人として責任のある行動を求められるにあたり、今回このようなイベントに参加する以前から、災害などが起きた時の大人としての行動を学んでおかなければならないと、漠然ながら考えておりました。そして、今日西條さんのお話を聞いたり、実際に質問させていただいたりするなかで、不測の事態において、大人が子供や家族に負うべき責任というものを改めて深く考えることとなりました。そういった点から、自分の意識を見つめなおす良い機会となりました。貴重なお話をしてくださった西條さん、並びにイベントを企画・運営してくださった皆様、本日はありがとうございました。」(フランス語学科4年)

「改めて、防災について考える大変貴重な経験となりました。高校生の時は、防災について考える時間がありましたが、大学生になってからは忘れてしまっていたので、これからは周りにも今日学んだことを広めながら、災害に備えていきたいと思っています。」(総合グローバル学科1年)

「西條さんからお聞きした体験談、そして南三陸町の様子などを周りの人々にも伝えていきたいと思っています。震災から10年がたち、テレビなどで大きく取り上げることがなくなってきているように感じているので今一度被災地の復興や防災について真剣に考えていかなければならないと感じています。本日は貴重なお話をありがとうございました。」(地球環境法学科2年)

学生プロジェクトチーム企画担当者より

参加者が震災を自分ごととして捉え、得た学びをこれからの身の回りの防災に生かしてもらうことを目的にメンバーと何度も話し合い、今回の企画内容を決定しました。

“バーチャルまちあるき”では、動画を通して南三陸町が震災から復興の道を歩み、より魅力的に生まれ変わろうとしている様子を実感することができました。

西條さんの講話からは、当時の恐怖感や不安感がひしひしと伝わってきました。メディアの報道などによって震災の被害の事実を知ることができますが、被災された方々がどのような事を考えていらったのかということや、細かい周りの状況などは、被災された方の声で直接お話を伺わなければ知りえないことであると思いました。

講話を踏まえて、グループワークでそれぞれの地域の防災について考えることが出来たのはオンラインならではの企画であったと思います。今回の学びや考えたことをそのままにせず、家族や友達と共有し、これからの防災行動に繋げてほしいと思います。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

企画担当 中津川 夏帆 (外国語学部英語学科2年)




南三陸町×上智大学オンラインイベント
南三陸の食

2月20日(土) 11:00-12:30

南三陸とつながって、一緒にクッキング！

視聴画面はこちら！

ゲスト：佐藤将人氏 (銀鮭養殖漁師・料理人)

YouTubeでのライブインタビューとライブクッキングを開催！

この企画は学生7名のプロジェクトチームで企画・運営されています。

お問い合わせ・minamisanriku.project@gmail.com

← 予告

最終回、2/20はYOU TUBE配信です。ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/nQD3EiidENw>

オンラインで南三陸町と上智大生をつなぐプロジェクト活動報告②

第2弾「持続可能な産業」は、講師として、水産などに非常に詳しいサステナビリティセンターの代表理事 太齋彰浩様と、長らく南三陸の森林を支えてきた株式会社佐久 専務取締役 佐藤太一様にお越しいただきました。(1月16日開催)

【事前学習】 参加者には、当日の理解を助ける参考資料を事前に配布しました。

- ASC認証について：WWF japan広がるASC認証宮城県産カキの6割が認証を取得！
(<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/3754.html>)
- FSC認証について：FSCジャパン認証取得支援プロジェクト (<https://jp.fsc.org/jp-jp/4-fsc/4-2-fm/354693538821462244712590325588125031252512472124551246312488>)
- 南三陸戸倉っかき (<https://toguraquest.com/>)
- サステナビリティセンターYouTubeチャンネル
(<https://www.youtube.com/channel/UCrgwExVRaXSEL870V1oUYCw>)

～水産認証に関する講話～

サステナビリティセンターの太齋様からASCなどの水産認証に関するお話を伺いました。水産認証取得に必要とされる基準の厳しさや、その認証の価値についてだけでなく、水産を取り巻く現状や、大きな牡蠣を育てることの難しかった震災以前の南三陸の漁業の状態から、現在の認証を取得した持続可能な漁業に至るまでの過程など、ご説明いただきました。

～森林認証に関する講話～

株式会社佐久の佐藤太一様から、FSCなどの森林認証に関わるお話を伺いました。森林を間伐することの重要性や、認証を取得することによるメリット、認証を取得した南三陸のスギを具体的にどのように活かしているのかななどを、写真やイラストを使いながら具体的に紹介していただきました。



二つの講話を通して、認証に対する認知度がまだ低く、そして認証取得にかかる費用が高かったり、認証付きの商品の販売価格に関しても、相応の価格よりも低い値段で販売していたりと、まだまだ販売や認証管理の点で難しい点も存在するようです。そのため今回の講話を通じ、改めて我々消費者がこうした認証付きの水産製品や木材製品などを購入し、少しでも認証を取得している企業を応援していくことがとても大切であることに気づかされました。

～ブレイクアウトルームセッション～

講師のお二人のお話を踏まえ、下記の3つの条件を満たす独自の産業や事業、または取り組みについて、参加者の皆さんとグループディスカッションを行いました。

- 条件①環境・社会・経済の三方よしであること
- 条件②自分ごととして取り組めること
- 条件③楽しい、ワクワク成分が多めであること

それぞれのグループから発表された意見やアイデアを一部ご紹介します。

- ・認証を受けた木材などを使用したベンチなどを大学キャンパス内に置き、メッセージプレートも加える。
- ・自分事として取り組めるか？は危機感を持つことが必要。
→ワークショップの開催方法の選択肢を増やす(オンライン・現地)事で普及させる。
- ・認証制度についての知名度が低い事が問題である。より広く知ってもらうためには、ドラマやアニメとタイアップしてストーリーを作り、ファンには聖地巡礼を通して現地にきてもらい、その背景を知ってもらう。
- ・認証を取得した原材料を使用した商品を購入するとポイントがたまる・割引があるなどの特典を作り、政府ともタイアップするなどの大枠から仕組む。
- ・認証についての学習総合施設を建てる。子供も大人もターゲット。建築には認証を受けた木材等を使用する。

参加者の声

- ・現在海で起きている様々な問題に関する専門的なお話を聞くことができ、非常にためになりました。**海洋問題を解決するために、今後具体的な方法を自分自身でも模索していけたら**と感じました。
- ・MSC・ASC認証など、今回の講義を受けるまで知ることのできなかつた非常に重要なことを知ることができ、とても勉強になりました。**消費者として正しい選択をし、今後MSCマークなどが付いている商品を買うよう心掛けたい**と思います。素敵な講義をありがとうございました。
- ・**50年間育てた杉の木は4000円～5000円にしかないことや、スターバックスとのFSCチェックツリーツアー**など、初めて知ることばかりでとても惹きつけられる講義でした。**南三陸杉というブランディングがとても素敵**で、家族にも教えたいと思います。素敵な講義をありがとうございました。
- ・山が海にとって大事な役目を果たしていることは知っていましたが、木の配置にも気をつけないといけないと知り、**環境の繊細さを知ることができました**。ありがとうございました。
- ・打ち解けた雰囲気ですぐに授業が進み、**肩を張ることなく聞けた**。
- ・これまで長く東京で暮らしてきた自分にとって水産業や林業は関心がある分野でありつつも身近なものではありませんでした。ですが、環境問題について考え、環境を守り、地域も活性化するために取り組むお仕事はやはり素敵だなと感じ、**自分の将来に関しても改めて考えるきっかけ**となりました。**コロナの状況が落ち着いたら、南三陸町にぜひ訪れたいです**。
- ・とても良かったです！講師のお二人だけでなく、**司会進行の方や、運営されている学生さんたちが責任感を持っていい雰囲気で作り上げていることが**ひしひしと伝わりました。初参加でも安心して楽しめました。

学生プロジェクトチーム企画担当者より

今回のプログラムは、特に「持続可能」という点に着目して内容を構成いたしました。参加者の皆様にとって、改めて「持続可能」について考え直す機会となり、さらには南三陸のことをより深く知っていただけたなら嬉しいです。

そしてこのコロナ禍が収まり次第、ぜひとも現地に足を運んでいただければと思います。

企画担当 竹ヶ原 将 (法学部地球環境法学科2年)



一般財団法人 学生サポートセンター主催 「学生ボランティア活動体験レポート」 優秀レポートに 課外活動団体 “ASANTE PROJECT”が採択されました。

例年、実施されていた「学生ボランティア団体助成事業」（一般財団法人学生サポートセンター主催）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学生の課外活動にも慎重な対応が求められている状況を踏まえ、実施を見合わせる事となりましたが、その代替事業として、「学生ボランティア活動体験レポート」を募集し、学生のボランティア活動を支援して下さることとなりました。優秀レポートに採択された団体には、活動助成金10万円が贈られます。

多数の応募の中から、本学の課外活動団体“ASANTE PROJECT”に所属の越村玲巳さん（総合グローバル学科3年）の報告が、優秀レポートとして採択されました。

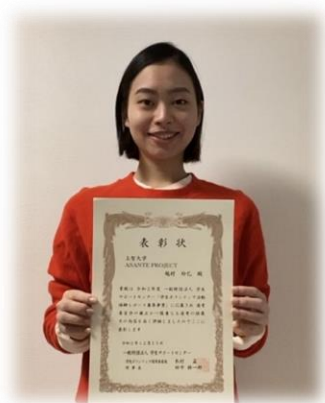
レポートには、2019年に3週間滞在したタンザニアでの活動の様子や、「ボランティアとは?」、「国際協力とは?」等、様々な気づきが纏められています。

越村さんの活動報告レポートは、こちらからご覧いただけます。

↓
<http://www.gakusei-sc.or.jp/news/000176.html>

越村さんより 受賞の感想

『この度は、このような賞を頂けて嬉しく思っています。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、タンザニアに渡航することが出来ず、試行錯誤しながら新メンバーの勧誘や日本での活動を行ってきました。当団体の理念である「現地のニーズを最優先に」、「持続的かつ将来性のある支援を」、「学生の手で社会に変化を」を念頭に置き、これからも今だから出来ることを追求めて行きたいです。』



越村さん、この度はおめでとうございます！



← 2019年度のタンザニアでの活動写真

3月開催のオンライン企画参加者募集のお知らせ

① 3月2日（火）福島県飯舘村前村長菅野典雄氏講演会

◎ 時間 10:30～11:30

飯舘村村長の第4期目に東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生。全村避難となった村の復興に向け、陣頭指揮を執られた菅野氏の講演会を開催します。

現地の中学生との交流（「飯舘村交流事業」）で飯舘村を訪問した本学学生たちを、いつも温かく迎えてくださった菅野氏のお話をぜひお聴きください！

* 参加申込みはこちらから → <https://bit.ly/2KeSSAw>

② 3月6日（土）南三陸町観光協会主催オンラインイベント

間もなく東日本大震災の発生から10年が経過します。復興の総仕上げの段階を歩みつつある南三陸町から、復興の軌跡などが紹介されます。イベント詳細はこちら ↓

<https://www.m-kankou.jp/event/239074.html/>

* 参加希望者には大学より参加費3000円を補助します（先着30名）。
* 2月中旬頃にLoyola掲示板にて参加のエントリーフォームと詳細を掲示します。

③ 3月18日（木）後輩に贈るボランティア活動報告会

◎ 時間 10:30～11:30

在学中にボランティア活動に積極的に取り組み、3月に卒業する学生有志8名のみなさんに、ボランティア活動を通して成長したこと、やってよかったこと、やり残したことなど、在学生のみなさんへ残しておきたいメッセージを発表していただきます。ぜひ先輩の振り返りをお聞きください！

* 参加申込みはこちらから → <https://bit.ly/3gh8ZJQ>

※①と③はボランティア・ビューロー主催
上智大生・教職員対象です。

ボランティアぷらっとほーむメンバー大募集！

“ボランティアぷらっとほーむ”とは、各ボランティアサークルの横の繋がりを強めることを目的とした学生の有志団体です。

彼ら自身がボランティア活動を行うのではなく、上智大学のボランティア活動の活性化を目指し、ボランティア・ビューロー（学生センター内）と共に、ボランティア活動をする学生たちの後方支援となる様々な活動（情報発信、交流の場の提供等）を行っています。

過去の活動例

- ・ボランティアサークル説明会
- ・Talk～面白い悩みがあふれてる～
団体運営の悩みをどう解決するか？
横のつながりで解決を目指す！
- ・オープンキャンパスでのボランティア団体紹介・クイズ大会や
パネルディスカッションを企画・運営・司会も！
- ・ボランティア系課外活動団体の紹介冊子の編集
- ・ボランティア団体の活動写真展 など

メンバー随時募集中です！

企画の提案・交渉・実施などに挑戦したい方は、ぜひお気軽に連絡してください！
新入生・在校生大歓迎です。

Twitter @Sophia_VoPla

E-mail :
volunteer.platform.Sophia@gmail.com

